

令和2年度学校経営の基本方針に基づく取組の重点

1 新型コロナウイルス対策

- ・生徒の健康状態の把握と校内の衛生環境の保持に努める。教職員も自身の健康管理と健康状態の把握に努め、感染リスクの高い行動を控える。
- ・授業等の形態や人数及び指導の内容や順序を工夫し、可能な限り感染拡大防止に努める。
- ・生徒の学習を支援するために、Classiやyoutube動画配信などのICTを活用した指導の研究を進める。
- ・様々な取組について、緊急性や重要性、有効性を判断し、優先順位を考えて、必要な場合は中止や延期を行う。

2 自ら学ぶ力の育成

- ・来年度からの生徒1人1台のタブレット端末の購入と活用を見据え、生徒がタブレット端末を活用して学ぶ授業について研究を進める。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価について理解を深め、指導と評価の一体化を図るため、評価の観点を取り入れた学習指導案をもとに公開授業を行う。
- ・「総合的な探究（学習）の時間」における生徒の主体性や探究の過程を重視した指導を、教科や特別活動の指導に積極的に連関させる。

3 自ら律する力の育成

- ・全体計画に基づき、各教科や特別活動をはじめとする全ての教育活動を通じて道徳教育を推進する。
- ・基本的な生活習慣を確立する指導に取り組む。また、保護者との連携を密にし、学校と家庭一体となって生徒指導を行う。
- ・「命」の尊さを感じさせる取組みや日々の人権教育の充実を図る。また、いじめや体罰、虐待を見逃さないよう、生徒の小さな異変に早期に気づく体制づくりを図る。
- ・部活動について、「日吉ヶ丘高校部活動運営方針」を遵守した年間計画を策定し、指導に当たる。

4 進路希望の実現

- ・大学入学共通テストの全員受験を目指し、5教科全ての基礎学力の定着を図る。
- ・「学びの基礎診断」と模擬試験をチェックポイントとし、基礎学力の定着と授業改善についてのPDCAサイクルを確立する。
- ・生徒一人一人の進路目標と状況を適切に把握し、模試などのデータに基づいた課題設定など、個に応じた進路指導の充実を図る。
- ・担任団と教科が連携し、家庭学習課題をバランスよく計画的に策定することにより、自学自習の促進を図る。特に、「ICTを活用した自学自習の促進」をテーマに研究し実践する。

5 英語教育・国際理解教育、広報の充実

- ・「英語村」を英語教育だけでなく、外国人など他者との積極的な交流の拠点とし、全生徒が真の国際人となるために、京都の伝統や文化を学ぶ取組みを充実する。
- ・SGHアソシエイト校としての取組を、校内の教育活動と体系的に関連付けながら、全生徒へ広げる。
- ・学校改革の取組や1人1台のタブレット端末の購入と活用を前提とした、魅力ある教育を広報する。

6 新教育課程の編成

- ・進学型単位制高校として、全ての生徒が一人一人の進路希望を実現できる教育課程を編成する。
- ・コース制を廃し、2年次までは共通履修を中心に、3年次で進路希望に応じて学びを深める教育課程を編成する。
- ・「総合的な探究（学習）の時間」を必要な年次に必要な単位数配置し、教育課程の中核とする。また、現教育課程を含めて1単位時間の弾力化についても研究する。